

会議結果報告書

- 件名 第8回アリーナ整備検討会議
- 日時 令和8年5月1日(金) 15:00～16:00
- 場所 本庁舎3階 第三会議室
- 出席者 別紙のとおり

【15:00 開会】

(柳井スポーツ文化局次長)

定刻となりましたので、ただいまから第8回アリーナ整備検討会議を開催いたします。

皆様、本日は大変お忙しい中、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

司会を担当いたします、岡山市スポーツ文化局の柳井と申します。

よろしく願いいたします。

本日は岡山商工会議所副会頭の高谷様はご欠席のため、同じく副会頭の森様にご出席されておられます。

また、一般社団法人岡山経済同友会常任幹事の野田様にご欠席のため、久山専務理事・事務局長が出席されておられます。

また、株式会社日本政策投資銀行岡山事務所長の長澤様にご欠席でございます。

会議の前に、お手元の資料をご確認ください。

2番目として本日の次第、3番目としてアリーナ整備検討会議のメンバー表、次に配席表、次に資料1 機運醸成の取組み状況報告資料、資料2 寄附の状況について、資料3 今後のスケジュール及び選定委員会の委員構成について、以上となっております。

全ての資料がお手元にお揃いでしょうか。よろしいでしょうか。それでは開会にあたり、座長の大森岡山市長からご挨拶を申し上げます。

(大森市長)

はい。皆さんこんにちは。大森でございます。

今日はお忙しいところ、第8回のアリーナ整備検討会議にご出席をいただきましてありがとうございます。

令和6年の8月から始まったこの会議も8回目となりました。

昨年11月議会に我々、アリーナ整備について提起をさせていただいたところ、議会側から議決をいただきましたので、事業決定ということになったわけであります。

現在、測量などの現地調査また整備運営事業者の入札に向けた準備を進めるとともに、アリーナ整備への機運の醸成、また寄附の募集などを行っているところであります。

今回の会議では、機運醸成の取組み、そして寄附の募集の状況についてご報告させていただきたいと思っております。

後ほど改めて事務局から説明していただきますけれども、今後アリーナ整備運営事業者を選定するにあたり、公平厳正に事業者を審査し、評価するための選定委員会を設置しなければなりません。

設置に関して、選定委員会のメンバー構成についてご意見をいただければと思っております。

本日も忌憚のないご意見、よろしくお願い申し上げます。

(柳井スポーツ文化局次長)

ありがとうございました。

続きまして、副座長の岡山商工会議所松田会頭からご挨拶をいただきたいと思います。

会頭よろしく願いいたします。

(松田会頭)

皆さんこんにちは。

今、大森市長からお話がありました通り、アリーナ建設につきましては、建設に向かって一歩進んだという状況の中で、先般、神戸の G-LION アリーナの視察に行くと、今日は機運醸成の取組みについてというのもございますけれども、これもその一環として、第1回目としてやりました。

今後、スタジアムも含めて、いろいろなスポーツ施設、まちの中にあるスポーツ施設を皆さん見に行こうという企画をやろう考えております。

ただ、アリーナを見に行こう、見学に行こうと言っても、結局集まった人たちはアリーナに関心ある人ばかりで、関心がない人はなかなかやはり行かないというようなことなので、そのあたりが結構難しいなど。

関心がないけれども行って見たらこれ面白いなというそういう設定をしていたんですけども、なかなか水を飲みたくない馬は水辺に行かないという理屈のようでございますけれども、何回か試みるうちに行ってみようかという方も増えてくるかもしれないという期待をいたしております。

今日は大変重要なテーマもあるようでございますので、ぜひ皆さんの忌憚のないご意見をお話し合いいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(柳井スポーツ文化局次長)

ありがとうございました。

続きまして顧問の岡山市議会田口議長からご挨拶をいただきたいと思います。

田口議長、お願いいたします。

(田口議長)

皆さんこんにちは。

今日は第8回のアリーナ検討会議を開催したところ、皆様ご出席いただきましてありがとうございます。

数えて8回目ということでありまして、令和6年から本当に皆さんにはいろいろと多岐にわたってご議論いただいたこと本当に深く感謝申し上げます。

おかげをもちまして、11月に市長からの提案を議会が可決し、一歩前に出たところであります。

この会も、これからいよいよアリーナの実現に向けていくことになろうかと思っております。

私たち岡山市議会といたしましても、スポーツを通じたまちづくり、小さい子供からお年寄りまでが観て楽しめる、そして、わくわくできる、そうした体験をぜひ岡山市で実現させたいという思いで頑張りますので、今後ともいろいろとご指導ご鞭撻賜りますことをお願い申し上げます、ご挨拶に代えさせていただきます。

本日は誠にご苦労さまでございます。

どうぞよろしくお願い致します。

(柳井スポーツ文化局次長)

ありがとうございました。

それでは、これより議事に入りますが、進行は座長の大森市長にお願いしたいと思います。

それでは大森市長議事の進行をお願いいたします。

(大森座長)

それでは座長ということで進行を務めさせていただきます。

座ったままで失礼をさせていただきます。

まずはお手元の資料の次第に沿いまして進行してまいります。1、機運醸成の取組み状況について、2、寄附募集の状況について、事務局から説明をお願いいたします。

(花田アリーナ整備推進担当課長)

スポーツ振興課の花田でございます。着座で失礼いたします。

それでは1、機運醸成の取組み状況についてと2、寄附募集の状況についてを一括してご説明いたします。

お手元の資料1をご覧ください。

これまで議会等において、アリーナ整備事業の更なる周知、機運醸成の必要性について多くのご指摘をいただいております。

こうしたことを踏まえまして、本事業の周知と機運醸成の取組みを進めており、その状況についてご報告いたします。

まず、アリーナ整備事業について改めて理解を深めていただくことを目的に、どなたでも自由にお越しただけのオープンハウス形式で事業説明会を開催いたしました。

場所は北長瀬未来ふれあい総合公園内のみはらしプラザにおいて、1月から4月の間で計4回開催し、合計で179名の方にご来場いただきました。

会場内でPR動画や展示パネルをご覧いただき、ブースにおいて個別に説明や疑問等への回答を行いました。

参加者からは完成が楽しみ、経済効果期待できる、若者の定着に寄与するのではないかというような賛成意見ですとか大型事業ばかりしないで欲しい、儲かるなら民間ですべき、市民の意見を聞いていないなど事業に対する反対や疑問の意見もいただきました。

その他、交通渋滞や周辺環境への配慮、アリーナの機能に関すること、県と協力して事業推進をといったご要望の声もいただきました。

多くの方にご来場いただき、個別に丁寧な説明等を行うことで、本事業に対する理解が深まったのではないかと考えております。

次に、資料1の2ページをご覧ください。

アリーナ整備事業に対する更なる理解を促進するとともに、アリーナをまちづくりどう生かしていくかについてのワークショップを3月に開催いたしました。

場所は問屋町の卸センターの会議室で、問屋町で事業をされている方や勤務されている方周辺にお住まいの方15名にご参加いただきました。

このワークショップでは、アリーナにより問屋町がどのように変わるのかを議題に二つのテーマを設け、グループにわかれてテーマごとに意見をまとめ、発表していただきました。

アリーナに期待することというテーマでは、アリーナでの多様なイベントの開催への期待や、アリーナの

機能、また幅広い世代が集える場所としての期待の意見がありました。

また、アリーナをきっかけに問屋町をこんなまちにしたいといったテーマでは問屋町をテーマパーク化するというアイデアや居住者にも配慮すべきという意見をいただきました。

このワークショップを通じて、これまで漠然と捉えていたアリーナ事業を我が事として考えていただけるきっかけとなったのではないかと考えております。

その他資料はありませんが、この他にも市の職員向け、新規採用職員向けの説明会を行っており、引き続き本事業についての理解を深めていただくよう、様々な取り組みを行ってまいります。

続きまして、資料2をご覧ください。アリーナ整備に係る寄附の状況についてです。

令和8年3月末時点での寄附の内諾額は、124件で29億1,390万円となっております。

また、昨年12月から実際の寄附受入れを始めており、3月末時点の受入れ額は、企業と個人からの寄附を合わせ、1億6,218万5,000円となっております。

この他にも3月末時点では未入金ですけれども、寄附の申請をいただけるものが10件、5,100万円ございまして、これを加えますと、令和7年度分の寄附の受け入れ額としては2億円を超える見込みとなっております。

引き続き、本事業への理解を深め、ご賛同いただくとともに、市民負担を少しでも軽減するため、経済界トップチームと連携しながら、広く企業等へ協力をお願いしてまいりたいと考えております。

なお、寄附募集の委託事業者につきましては、令和8年度は昨年度から1社増え、5社で寄附募集に取り組んでいくこととしており、各社の持つネットワーク等を活用いただきながら、より一層の寄附獲得に繋がることを期待しているところでございます。

事務局からは以上でございます。

(大森座長)

ありがとうございました。

今、事務局から説明があったんですが、少し前の会議からも時間がたったということもあるんで、少し経緯をおさらいしたらどうかという事務局からの話がありますので、私として少しお話をさせていただきたいと思います。

そもそも、令和3年の12月に提言書をいただいたところから、このプロジェクトが動き出しました。

このアリーナ整備事業は、プロアマのスポーツ団体から交通の利便性、また大規模大会のキャパシティを両立できる会場の確保に苦慮している現状、また、リーグの求める施設基準の変更により国内最高峰のリーグで活動できなくなる事態も想定されている、地元のトップチームの窮状についてのお話を伺い、検討を進めてきたところであります。

岡山市は、近畿と九州を結ぶ東西軸、また、山陰と四国を結ぶ南北軸のクロスポイントに位置しており、交通の至便性は極めて高いものであります。

さらに、岡山市は再開発などの民間投資意欲が非常に高いまちであり、そして70万市民を有します。

さらに、圏域で考えますと、100万を超える人口となるこのエリアの要素の一つとして、アリーナというものは必要不可欠なものであり、これからの岡山のまちの未来、そしてまちづくりにとってはなくてはならないものであるということでもあります。

また、このアリーナはスポーツイベント、ライブコンサートなどの開催を通じて、多くの人が集まる場所として、また一つの産業拠点として、市内外に大きな経済効果をもたらすだけではなく、また金額には表すことのできない心の豊かさや、わくわく感を生み出すものとなってまいります。

ありがたいことに、県内全ての市町村や市議会議長会の皆様方からも応援をいただいております、アリーナ事業への大きな期待を感じているところであります。

以上のことから、アリーナは岡山の未来を創り出すものとして、今後の岡山のまちづくりに必要と考え、事業化を決断し、そのための予算を昨年の11月定例市議会において議決をいただいたところであります。

現在、入札に向けての準備をに着手するとともに、岡山市の目指す「観る」、また「魅せる」アリーナと、従前の「する」体育館との違いや、アリーナがもたらす効果などをわかりやすく説明した動画に加え、ワークショップや説明会等を開催し、機運醸成に努めているところであります。

なお、寄附については今、事務局から説明がありましたが、現時点で29億円を超える寄附の申し出をいただいているところであります。

全体予定として50億円ほどを考えていたわけではありますが、現時点で約6割の額を申し出いただいたという状況になっております。

受入れ額であります、入金予定のものを入れると2億円を超えている状況であります。

更なる寄附の獲得に向け、経済界トップチームと一丸となって取組みを強化してまいりたいと思います。

事務局の説明ないしは私の今の経緯の話などを通じて、ご質問、ご意見などがあればお願いをしたいと思います。

松田会頭の話ではありませんけど、ここは皆さん、アリーナについてよくご存知の方ばかりなので、経緯の話、現状の話についてはよろしいですね。

では次に進めさせていただきます。

今後のスケジュールおよび選定委員会の委員構成について、事務局より説明をお願いいたします。

(花田アリーナ整備推進担当課長)

それでは3、今後のスケジュールおよび選定委員会の委員構成についてです。

お手元の資料3の1ページをご覧ください。

資料上段でございます。

アリーナについては、令和14年度、2032年度中の完成に向けて準備を進めているところでございます。

今年度、来年度の2年間でアリーナを整備運営する事業者を決定し、その後、施設等の設計に約2年、建設に約3年を要し、完成、開業というようなスケジュールになっております。

資料下段をご覧ください。

現在は、昨年度契約した委託事業者である日本総合研究所の支援を受けながら、入札公告に向けて準備を進めているところであり、9月ごろまでには民間事業者の選定手続きなどを定めるアリーナ整備事業の実施方針の案と、本事業で、市が事業者を求めるサービス内容、機能や性能、品質水準、運営条件などを示す要求水準書の案を公表する予定としております。

また、6月議会において民間資金等の活用による、公共施設等の整備等の促進に関する法律、いわゆるPFI法ですけれども、これに基づく実施方針に関する条例とアリーナ整備運営事業者を選定するための選定委員会設置条例を提案する予定としております。

資料3の2ページを御覧ください。

一つ目、上の段、実施方針に関する条例についてです。

こちらはPFI法の規定に基づき制定するもので、整備運営事業者の選定手続き運営等の基準、業務の範囲、利用料金等に関する方針を規定するものです。

下段をごらんください。

2 番目選定委員会の設置条例についてです。

こちらは本事業において、アリーナを整備運営する事業者を適正に選定するためには、高度な専門性と客観性が求められることから、市の職員のみではなく、外部の有識者等から成る選定委員会を設置する必要があり、条例に位置づけた選定委員会を設置しようとするものです。

条例には、委員会の所掌事務や人数等を規定することとしております。

資料 3 の 3 ページを御覧ください。

参考といたしまして、コンセッション方式によるアリーナ整備を行った都市の選定委員の事例を表にまとめたものです。

分野については、日本総研がまとめた資料をもとに、岡山市でカテゴリー分けを行っております。

他都市の事例では、PPP/PFI や交通公共政策の分野、都市計画・まちづくり・地域活性化の分野、スポーツビジネスを含むスポーツ分野、環境などを含む建築分野、財務分野、法務分野、地域経済観光の分野、行政分野などから必要な分野の有識者を委員として選任されているようです。

これらの先行事例を参考に、岡山市でもどういった分野の有識者を選定委員に選任するかを検討した上で、具体の人選を行う必要があるものと考えております。

今回の検討会議では、選任する有識者の分野などについてぜひ皆様にご意見をいただけたらと思います。

説明は以上でございます。

(大森座長)

ありがとうございました。

今、事務局から説明がありました。

ちなみに我々の方も、アリーナ整備について体制をきちっと整備すべきだということで、今説明しているのはスポーツ文化局ではあるんですけども、スポーツ振興課の中にアリーナ整備推進室というのを設けて、新たに体制を強化したものであります。

なお、岩田局長はもう 7 年目か 8 年目か、アリーナは一筋できているわけであります。

それでは、事務局からの説明の通り、現在入札に向けて準備を進めています。

この 6 月議会には、実施方針に関する根拠を定める条例、また、事業者を選定するための審査会を設置するための条例の提出を予定しているところであります。

条例案が確定すると、次は委員の選任をしていくこととなります。

これらについて、必ずしも選定委員の話だけじゃなくいいと思うのですが、今までの中で、何かご意見をいただければありがたいなと思うのですが、皆さん方どうでしょうか。

まずは学識の方の意見からいただけますかね。三村さんから。

(三村氏)

岡山大学の三村でございます。

岩田局長とともに、アリーナ一筋で取り組んでまいりました。よろしく願いいたします。

本日配布いただいた資料につきまして、先ほど「ご意見があれば」ということで、会議前に吉田さんから頂戴し、初めて拝見いたしました。非常に論理構成が整理されており、岡山市としてどのように進めていくのか、また他都市との比較も含め、大変わかりやすい資料だと感じました。

私の専門領域に関係する部分だけ申し上げますと、最初の PPP/PFI・公共政策のところは、非常に重要なポイントであり、岡山市としても一つの肝になる部分だと思っております。

この分野では、配布資料にある愛知県新体育館に関わっておられる山内弘隆先生の名前がありますが、山内先生は公共政策分野の第一人者であります。一昨年、「地域公共交通モビリティの再構築」を、大森市長と親しい両備グループの小嶋光信会長と家田仁先生両名の監修で出版した際、編集担当の弊職が、公共政策の観点から推薦文をお願いするため山内先生のもとへ伺いました。山内先生も指摘されていますが、こうしたインフラ・公共施設をどのようにマネジメントしていくのかという点について、従来型の PFI に限らず、「稼ぐ」という概念も含めて考えていく必要があると思います。この分野については、本日ご欠席ですが、日本政策投資銀行(DBJ)の長澤所長さんともよく意見交換をしております。DBJ様には非常に詳しい専門家の方々が多くおられますので、この配布資料にあるメンバー構成から察するに、この領域の知見に非常に厚みがある DBJ 様をご推薦したいと感じたところでございます。

次に、都市計画・まちづくり・地域活性化の部分ですが、私も僭越ながら、倉敷市、津山市、備前市、井原市、赤磐市など、岡山県内自治体の総合計画や創生総合戦略策定審議の会長を拝命させていただきました。その際、ベンチマークとして参考にさせていただいているのが岡山市の総合計画や創生戦略でございます。その中でも、スポーツをまちづくりの中にどう位置づけていくのかという点は、非常に重要なテーマとして各自治体ともに検討されてきたと認識しております。先ほど市長がお話しされたこれまでの経緯の中で、アリーナ単体が創造すべき必要なキーワードはかなり整理されてきたのではないかと感じております。その上で、アリーナ単体だけではなく、周辺エリアも含めて、地方創生にどのように資する施設にしていくのかという観点は、とても重要になると感じております。

また、当初から議論がありましたが、防災機能をどのように位置づけるかという視点も、今後の検討課題として重要ではないかと思えます。もちろん、この場で扱うべきかどうかという点も含めてですが、重要なキーワードとして、検討項目に入れるべきテーマであるように感じたところでございます。

スポーツ分野につきましては、隣のお二人の先生方がご専門であり、私は素人でございますので、その点は省略させていただきます。

財務面についてですが、本日、1万人規模のアリーナとして整備を進めていくというご説明がありました。今後、建設後の運営段階に入ってまいりますと、ランニングコストは、民間主導による民間側やスポーツ団体の責任で運営が継続できれば申し上げることはございませんが、良く指摘がされます住民負担の問題も含め、先ほどの市民ヒアリングでも様々な意見が出ておりました。したがって、収支計画の中で、特に維持管理コストをしっかりと見ていただける方が必要であり、その意味で配布資料の中に大手監査法人の方々が入っておられるのは大変重要だと感じました。

最後に、地域経済・観光の部分ですが、ここにつきましても、先ほど申し上げました DBJ の長澤所長さんが岡山市宿泊税検討委員会のメンバーあるため、よく一緒に議論しているテーマでございます。私は現在、倉敷市宿泊税検討委員会の副会長を務めておりますが、こうした地域経済や観光の視点については、インバウンドや産業振興への結びつきを踏まえて、経済界の皆様にもぜひ主要メンバーとして関わっていただき、地域が元気になるための拠点としてのアリーナという視点を大切にしていってご議論をご指導頂く必要があると感じております。

いずれにいたしましても、このアリーナという拠点について、「木も見て森も見る」という両方の視点を持ちながら、他都市の事例も参考にしつつ、議論が深まっていけばと思っております。

以上でございます。

(大森座長)

ありがとうございました。

それでは三浦先生、お願いします。

(三浦氏)

はい。まずは、この事業説明の関係者の方々、本当にありがとうございます。ご苦労さまでした。大変だったのではないかなと想像がつきます。

ここでもいろいろ住民の方々のご意見が出ているようでしたし、私も少し気になったことがありましたが、世間話で商工会議所の方とお話をすると、いろんなことを考えられているということで、安心しました。

私のこの立場から気になったのは、この「要求水準書の作成」というところです。

建物を作るにあたって、どれだけ最先端のものが組み入れることができるか、ということを検討しなくてはならないだろうとまずは思いました。

この選定委員のところを、やはり DX であるとか、そういった最先端のものがどれだけこの中に入っていくのか、ということきちっとわかるような方に入っていただくことが良いのではないかなと思いました。

以上です。

(大森座長)

では林さんお願いします。

(林氏)

失礼します。

私からは、この会議に参加させていただいて、当初から申し上げました通り、このスタジアム、アリーナ次アリーナ自体がやはり価値創造拠点であるべきだというようなことをずっと申し上げておりました。

ですから、産業創出という観点で言っても三浦先生おっしゃった DX であるとか、最近ですと AI であるとか、そういうテクノロジー系の実証実験の場としてどういった可能性、そういったものが試せるのか、あるいはそういったことが評価できるのか、というような観点もこの選考委員の方々には、要素として持っていたけると嬉しいんじゃないかなと思います。

地域経済観光に入ってくるかと思うんですけども産業創出だとかイノベーションとかインキュベーションとか、そういうような文脈での委員の方が入っていただけるといいんじゃないかと感じておるところでございます。

以上です。

(大森座長)

ありがとうございました。

あと、経済界の方から何かありますでしょうか。

はい、森さんお願いします。

(森氏)

失礼します。先行事例として同じく BT+コンセッション方式をとった愛知はかなり大規模になっていらっしゃるんですが、その BT+コンセッションにつながっていくファイナンスのところ、外資系の〇〇が入ってい

ると聞いておりました、そのアメリカの今現在持ってらっしゃる様々な知識、知見と、日本で実際に起こっているお客様方とそのニーズのギャップというのがあるらしく、うまくいっていないというようなことも噂で耳にしておりました、できればその BT+コンセッション方式をされる際のファイナンス面でのところ精査をきっちり、もしくは経験値としてお持ちになってらっしゃる方実際にこういうあるいは経営の知見の高い方に、ぜひ委員として引っ張っていただきますと、そういう先行事例、様々な事例を反面教師として仕上げて、より良いアリーナの建築にしていけるようなアドバイスをいただける方に入っていただけたらなと思っています。

以上です。

(大森座長)

確かにそんな感じがしますね。

コンセッションといったって、どうやって動かしていくのかというのは、いろんな形態がありそうなので、それほど経験豊富という感じでは日本はないでしょうけれども、そういったことがわかる人というのは重要な気がしますね。

はい、ありがとうございました。

他よろしいですか。

服部さん、お願いします。

(服部氏)

皆さんのご意見とかぶる部分もあるかもしれませんが、ご了承ください。

分野で言いますと、まずは都市計画まちづくり。

森さんもおっしゃったように、PFI やコンセッションに詳しい方が必要なのだと思います。

また、アリーナは単なる体育館ではなく、まちづくりの中核施設です。

都市の未来をつくる委員会でも、PFI コンセッションですけども、これは稼ぐ施設ということも目指すべきだという意見もありますので、そのあたりの専門家も必要だと思っています。

経済界というよりは、一市民、一時保護者として言わせていただきますけれども、あそこの施設で展開されるスポーツや、エンタメ、演奏等そういうものに子供たちが憧れるようなものを考えていくべきだと思います。

そのためには、全日本大会、世界大会、そういったものが提供されるべきであると思いますので、そういうものを誘致できる基準を満たしたレベルの、できれば施設をしっかりと間違いなく盛り込めるような設計といますか、基準を満たせるような交渉ができるようなものが入ってくるべきだと思います。

(大森座長)

はいありがとうございました。

他によろしいですか。

はいどうぞ。

(松田副座長)

ご意見がいくつか出ております。

今回、どういうものを作っていくかということについて、その基準といいましょうか、服部さんも少し触れられましたけれども、例えば箱もそうですし、それからその中で展開されるいわゆるソフトについてもそうです

し、それから運営について AI ということも出てきましたけれども、どのレベルの水準に合わせてやるかということについて、認識をやはり統一しておく必要があるのかなと思うわけですがけれども、私はやはり考えられる最高峰のものを目指すべきだと思っています。

先般新しくできた神戸の G-LION はコンセッション方式ではないわけですがけれども、素晴らしい箱ができていて、音楽の施設についても、プレーをする人が機材を持ち込まなくても、そこにある機械で十分演奏ができるというレベルの機械を既に設置しているということで、その場合は 11 トントラックが出たり入ったりすることが比較的抑えられるので、どんでん返しがかえって楽だとか、そういったノウハウも既に新たなものが構築されているというのは耳にしましたので、いずれにしても選考委員を選ぶ場合には、権威がある方々がおっしゃるのは当然そうかもしれませんけれども、要はそのレベル、要するに世界のレベルの中でこういうことをやるべきだということがきちっとその具体的に知見として持っている方をどの分野でも選ぶべきかなという思いがいたしております。

せっかく作るべくして動いているアリーナでございますので、最高水準を目指してぜひお願いしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(大森座長)

はい、ありがとうございました。

他にどうでしょうか。

(田口顧問)

このアリーナというスポーツも含めてエンタメ、魅せるということを考えると、やはりエンタメ関係の専門家など、そういうこともよく熟知した人に委員として専門的にアドバイスをいただくことは必要で、そこをないがしろにすると今度は利益に繋がらないことになるので、やはりエンタメをどう魅せていくか、そしてそれをどう演出していくかということも含め、検討委員会のメンバーにそういう熟知した人を入れていただきたいということが一点。

それからもう一点は、あくまでも箱モノを作るだけけど、やはり箱モノにとどまらず、拠点となる岡山市西部のまちづくりの観点からも、その箱モノを作ることによって、そのまちにいろんな活性化が生まれる。それが経済効果に繋がる。

やはりそうした視点を必ずこのアリーナの中に入れなくては、あくまでも箱モノとして終わったんではいけない。その箱モノを起点とする起爆剤でまちづくりができるんだということ、これを大きく PR をして、大きなシンボルにしていくことが、このアリーナ計画の一番大事な肝だと思っているので、その辺も踏まえた人をぜひよろしく願いいたしたいと思います。

(大森座長)

はいありがとうございました。

他にはよろしいですか。

服部さんの話の中で、いわゆる世界の大会とかね、そういうものが誘致できるようなという話がありましたけれども、私、今サッカーの関係の自治体連盟の役員で入っております、ワールドカップの後どこでやるかっていうのがだいぶ決まっています、例えば広島スタジアムで、これは北川さんの方がお詳しいと思いますけれども、そんな動きが出てきています。

だから、プロの大会、今日はシーガルズさん、リベッツさんということなんだと思いますけれども、あとは

松井さんのところのアマの大会でも、どんなものをやれば本当に大きな大会ができるのか、そういう視点というのは、メンバーとは別なのかもしれませんが、必要なことなんじゃないかなというように思います。

よろしいでしょうか。それでは今のご意見を参考にして、委員会メンバーを選定させていただきたいと思えます。

また、次のこの検討会議でもそういったことを披露させていただければと思います。

またご議論をお願いしたいと思います。

その他ですが、せっかくの機会でもまだ時間的には余裕がございますので、何かあればお願いをしたいと思えます。

はい、神崎さん。

(神崎氏)

皆さん、そろそろ会議が終わるというところで一言付け加えさせていただきたいと思えます。

市長からは、令和3年12月の私どもからの提言書からプロジェクトが動き始めたという説明がございましたが、経済界の認識としては、およそ10年議論がありまして、具体的に申し上げますと、2018年、平成30年2月に提言書をお持ちしたところから具体的な岡山市の検討が始まったと認識しています。

その提言書を大雑把に申し上げますと、市役所建て替えと同時に防災施設としてアリーナを併設してはどうかといった内容でした。

本日はお隣の新しい市庁舎を拝見して、あの時から動いていたならそろそろ完成していたとも考えさせられます。

その提言書の結論としては、市庁舎とアリーナは議論の時間軸が違うということで同時には動かさない。切り離して考えましょうということでした。

これからアリーナ整備までまだまだ時間がかかるわけですが、先日、当事者を前にして言うのは誠に失礼かもしれませんが、シーガルズのトップリーグのライセンスの問題があったかと思えます。

様々な問題があつてのことと、私も詳細はよくわかりませんが、おそらくはその予算規模の問題だったり、運営上の問題があつたのだと思えます。

サンフレッチェ広島スタジアムが昨年できて、広島は元々40億程度の予算規模だったクラブチームが、スタジアムができることによって、予算規模が一気に80億円に上がってきていると伺いました。

新しいアリーナが出来たとき、それぞれスポーツチームの活躍の規模予算規模にも繋がってくると思えます。それぞれ倍というのは想像がつかませんが、今よりも更なる活躍が期待できると思えます。おそらくいい選手が集まるでしょう、いいスポンサーも集まるでしょう。もっと素晴らしい成績を収めて、トップリーグに達してないチームもトップリーグで活躍するようになるでしょう。

そういうことも想像しながら、今後期待したいと思えますし、今後開催される様々なワークショップ等を通じて、市民の皆さんには理解を深めていただければと思います。

サンフレッチェ広島の例を出しましたが、アリーナの効果は計り知れないものがあります。引き継ぎ私も前向きにご協力して参りますので、よろしく願いいたします。

(大森座長)

はいありがとうございました。

シーガルズの名前が出ましたので、高田さんから。

(高田氏)

岡山シーガルズの高田です。いつもありがとうございます。

本当に皆様にご心配やご迷惑をおかけしました。

無事に4月15日に条件付きですがライセンスを交付していただきました。

いろいろこれから提出しないとイケないものもあるんですけども、まずは皆様方のお力をお借りする前に内部の統制をとって、しっかり組み立てていきたいと思えます。

その上で、改めてお願いをしに回りたいと思えます。

しっかり頑張りますのでよろしくお願ひします。

ありがとうございます。

(大森座長)

はい。自然に拍手が沸いてきましたけれども、羽場さん何かありますか。

(羽場氏)

岡山リベッツの羽場です。本日は前向きなお話が聞けて大変嬉しく思っております。

国際大会で言うと、明日から、実質的にはもう始まっているんですが、世界卓球が始まっているということで、岡山リベッツからも張本選手が出場しているところなんです。

こういう大会を呼びたいということで、私も日本卓球協会やTリーグと少しずつ話をしているところなんです。では数ある今新しくできているアリーナの中で何が違うのか、何がすごいのかということは言われませんでした。

そういう意味では、やはりたくさんある中の一つではなく、何か違う特徴がある、世界中から観光客が呼べるぐらいの、何かインパクトがあるようなものを作るということが大事ではないのかなと思っているところなんです。

今ある予算内定例会やらなきゃいけないという点で考えると、やはり今後、ベンチャー的なマインドを持ったような人の意見であったりとか、そういう方が中に入って活動していくということが大事じゃないのかなというのを今日お話し聞きながら感じたところでございます。

以上です。

(大森座長)

岡山のアリーナしかない何か特徴的なもの、そういったものが発信できればということですよ。

おっしゃる通りだと思います。

あとはスポーツ界、北川さん何かありますか。

なければ無理にとはい言いませんが。

(北川氏)

発言していいかちょっと迷いますね。

今の議論でいくなれば、ご意見があつて市長からお話がありました。

サッカーであれば明確にインフラの状況によって何が呼べるかが決まっております。日本代表や、日本代表でなくてもカップ戦が呼べる。

ただそれだけではなくて、例えば世界ユース大会を呼ぶなんていうのもルールで決まっておりますし、仙台は誘致しているんですね。ユース世代の世界大会が仙台で行われている。

そんなことも参考になるのかなと思います。室内競技のレギュレーションがわかりませんが、何かそういうのももしかしたら、確かに今日議論して、このまちにとって有意義なのかなとも思いました。

神崎さんからありましたサンフレがまさに40から80を超えるような規模になっております。

まさにそのためには、我々クラブはしっかり努力を続けなければいけないと思っておりますので、サッカーだけじゃなくて、こういう全スポーツクラブがしっかり努力をしていって、地域の方々のお願いをしっかりと作っていく。だからこそアリーナが岡山に必要なんだ、そういうところは僕らからも発信できるのかなと思っております。

以上です。

(大森座長)

アマのスポーツを代表して松井さん、何かコメントどうでしょうか。

(松井氏)

失礼します。

この選定委員会なるものを、そして選定委員の先生方をどのようにということなんですけれども、私たちからはもう子供たちが将来大人になったときに、このアリーナができてよかったねって思われる、その子供たちの夢を育む、そういうビジョンを持つ、子供たちが心が豊かで輝いて、このアリーナを使う、そういうようなところ、これはもう全部に当てはまると思うんですよ。

都市計画、スポーツ、建築ということで、それをぜひ組み入れていただいて前向きに進めていただければと。

私もスポーツ協会の方も、子供たちが夢を育んでいける事業を作ろうということで、夢アスリートということで、小学生の全県の小学生の小学校にアプローチしまして、集めまして、それぞれいろんなここには三浦先生おられるんですけど、環太平洋大学とジョイントしまして、とにかく子供たちに素晴らしい夢を持たせてやろうと。

将来本当にこの土地が、先ほど言いましたが、このアリーナが岡山にあってよかったねというような分野を、ぜひともこの選定委員の先生方に、一つこのキーワードを外すことがないようにということでお願いしたいと思っております。

(大森座長)

はい。わかりました。

その他、学識の先生方とか経済界皆さん方どうでしょうか。よろしいですか。

では三村さん。

(三村氏)

運営は民主導で責任をもって実施するという事業方式についての私からの岡山市への質問です。

ひとことだけ申し上げます。

先ほどの事業方式についてですが、選考委員会にも関わる内容かと思っておりますので、かなり気を遣いながらご質問申し上げますが、市長がおっしゃった「本当にやっていけるのか」という点についてです。

これは、公の場で申し上げることではないのかもしれませんが、例えば「うちでやってみたい」といった形で、民間事業者側から岡山市に対して、手を挙げたり、詳しい話を聞きたい、といった動きは、現時点で出てきているのでしょうか。

あるいは、まだそういった段階ではないのでしょうか。

(吉田スポーツ振興課長)

今のところ複数社さんがかなり関心を示されています。関心を示されているということは、収支もある程度これから弾いていかれる前提で考えられているものと考えています。

(三村氏)

ありがとうございました。安心しました。

(大森座長)

それではよろしいでしょうか。とりあえずこの会を終わらせていただきたいと思います。最後に事務局からお願いいたします。

(花田アリーナ整備推進担当課長)

次回のアリーナ整備検討会議ですけれども、次回の開催予定は7、8月頃とさせていただこうと思っております。

その際には、先ほどのスケジュールの説明にございましたように、要求水準書の案の概要をお示し、ご意見等いただけたらと考えております。

以上でございます。

(大森座長)

どうもありがとうございました。

(柳井スポーツ文化局次長)

ありがとうございました。

以上をもちまして、第8回アリーナ整備検討会議を終了いたします。

本日は誠にありがとうございました。